

令和4年度老人保健事業推進費等補助金

(老人保健健康増進等事業)

地域高齢住民における認知症および軽度認知
障害の有病率調査
報告書

令和5(2023)年3月

国立大学法人 九州大学

目 次

I. 事業概要	1
---------	---

II. 調査報告	3
----------	---

1. 調査目的	3
2. 対象と方法	3
3. 調査結果	7
4. 今後の予定	7

I. 事業概要

1. 事業名

地域高齢住民における認知症および軽度認知障害の有病率調査

2. 背景・目的

わが国では、総人口に占める 65 歳以上人口の割合が 1960 年の 5.7%から 2012 年の 24.1%へ 50 年間で 4 倍に増大し、それに伴い急増する認知症高齢者が大きな医療・社会問題となっている。厚生労働省による認知症有病率の全国調査の成績によれば、2012 年時点でのわが国における 65 歳以上の高齢者における認知症の有病率は 15%で、全国の患者数は約 462 万人と推計され、その数は 2025 年には約 600 万人～700 万人に達すると見込まれている。そこで、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進する目的で、2019 年 6 月に認知症施策推進大綱が策定された。

一方、最近の報告によると、世界の認知症罹患患者数は 2050 年度までに 3 倍に増加するが、わが国の教育環境や生活習慣の見直しなどのリスク低減策の効果によりその増加率は 1.3 倍と分析対象国では最も低いと推定された(Lancet Public Health 2022;7:e105)。また、欧米における疫学調査によると、認知症の有病率や罹患率は 1990 年代から 2000 年代まで比較的横ばいあるいは低下傾向にあるとの報告が散見される(Lancet Neurol 2019;18:88、Nat Rev Neurol 2017;13:327、Lancet 2020;396:413)。このように認知症罹患数の時代的变化は、様々な施策により影響を受ける可能性がある。そこで、わが国の認知症に対する施策の効果を評価する上で地域高齢住民を対象に認知症および MCI の有病率の再調査を行うことが重要である。

本研究グループは、2016 年より「健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究：Japan Prospective Studies Collaboration for Aging and Dementia (JPSC-AD)研究」を実施している(国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)認知症研究開発事業)。この研究では、わが国の 8 地域(青森県弘前市、岩手県矢巾町、石川県中島町、東京都荒川区、島根県海士町、愛媛県中山町、福岡県久山町、熊本県荒尾市)の地域高齢住民を対象に、予め標準化された調査項目や測定方法、認知症診断及び頭部 MRI 検査を用いたベースライン調査を実施し、精度の高い認知症コホート研究を推進している。さらに、8 地域のうちの石川県中島町、愛媛県中山町、福岡県久山町の 3 地域で実施した 65 歳以上の地域住民の悉皆調査(受診率 85%)の成績を用いて、2017 年の認知症の有病率が 16.4%であることを報告した(Environ Health Prev Med. 2020;25:64)。この成績は認知症施策推進大綱の策定の際に活用された。

本事業では、上述の 8 地域のうち、石川県中島町、島根県海士町、愛媛県中山町、福岡県久山町の 4 地域の 65 歳以上の住民を対象に認知症および軽度認知障害(MCI)の有病率の地域悉皆調査を実施し、現在のわが国の認知症およびMCIの現状を明らかにすることを目的とした。

3. 実施期間

2022 年 6 月 6 日(内示日)～2023 年 3 月 31 日

4. 実施体制

1) 調査班

本事業では、以下で構成する調査班を設置した。

氏名	所属	役職
○二宮 利治	国立大学法人 九州大学 大学院医学研究院 衛生・公衆衛生学分野	教授
小野 賢二郎	国立大学法人 金沢大学 医薬保健研究域医学系 脳老化・神経病態学	教授
中島 健二	独立行政法人国立病院機構松江医療センター	名誉院長
伊賀 淳一	国立大学法人 愛媛大学 大学院医学系研究科 医学専攻分子・機能精神神経科学	准教授

(○は研究班長、敬称略)

2) 班会議実施状況と主な議事

実施期間中に計 2 回の研究班会議を開催し、事業について検討を行った。

班会議の各回の議事は以下に示す通りである。

(1) 第 1 回 班会議

日時:2022 年 7 月 9 日(土)

議事:

1. 本事業の概要の説明
2. 各調査施設における本年度の調査計画について
3. 自由討議

(2) 第 2 回 班会議

日時:2023 年 1 月 28 日(土)

議事:

1. 本事業の進捗状況、今後のスケジュールの説明
2. 各調査施設における調査の進捗状況について
3. 自由討議

II. 調査報告

1. 調査目的

わが国の4地域の65歳以上の住民を対象に認知症および軽度認知障害(MCI)の有病率の地域悉皆調査を実施し、現在のわが国の認知症およびMCIの現状を明らかにする。

2. 対象と方法

1) 調査対象者

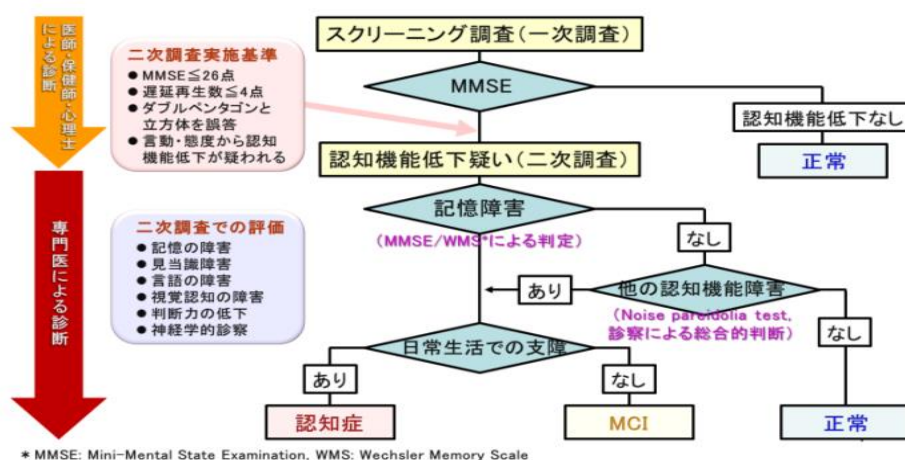
福岡県粕屋郡久山町、石川県七尾市中島町、島根県隠岐郡海士町、愛媛県伊予市中山町の4地域の65歳以上の地域住民約7,000人

2) 調査デザイン

地域悉皆調査(会場調査に加え自宅や入居施設の訪問調査も実施)

3) 認知症の診断方法

- ① 認知症の診断は認知機能調査票を用いて、二段階方式で行う研究対象者に神経心理学的検査を用いた認知機能に関する面接調査(一次調査)を施行する。面接調査はトレーニングを受けた医師・保健師・看護師・心理士等が実施する。
- ② 一次調査では、Mini-Mental State Examination (MMSE)を用いて認知機能低下の有無の調査を行う。
- ③ 一次調査で認知機能低下が疑われる者に対しては、精神科・脳神経内科専門医による二次調査を行い、本人の診察、家族・主治医との面接、臨床記録、Logical memory IIa subscale of Wechsler Memory Scale-Revisedの結果を通じて認知症およびMCIの有無と重症度、病型を評価する。認知症とMCIの診断基準にはそれぞれDSM-ⅢR、Petersenの基準(Petersen RC et al, Neurology, 2001)を用いる。



認知症、軽度認知障害(MCI)の診断プロセス

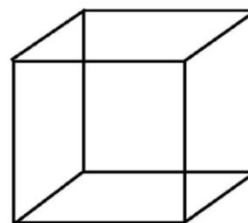
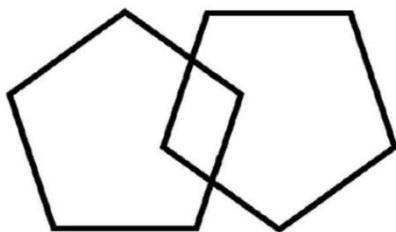
(一次調査用紙)

MMSE

空欄は回答なし

	質問内容	反応	MMSE	
1	「お歳はいくつですか。」	歳		
2	【日時の見当職】 「今年は何年ですか。」(例示は明治・大正を、反応には年号も記載) 「今の季節は何ですか。」 「今日は 何月ですか。」 「今日は 何日ですか。」 「今日は 何曜日ですか。」	年 月 日 曜日	0 1 0 1 0 1 0 1	
3	【場所の見当職】 「ここは 何県ですか。」 「ここは 何町(市)ですか。」 「ここは 何地方ですか。」 「ここは どこですか。」 「ここは 何階ですか。」	県 町・市 地方 階	0 1 0 1 0 1 0 1	
4	【即時再生】(採点は最初の施行で実施。教示の繰り返しは6回まで可) 「これから言う3つの言葉を言ってみてください。」 「あとでまた聞きますのでよく憶えておいてください。」 ①ひまわり ②きつね ③自動車 (各1秒ずつくらい間をあげる)	ひまわり(あさがお) きつね(ためき) 自動車(じてんしゃ)	0 1 0 1 0 1	
5	【計算問題】「100から7を順番に引いてもらいます。」 「100から7を引いてください」 「続けてください。」 「続けてください。」 「続けてください。」 「続けてください。」	93 86 79 72 65	0 1 2 3 4 5	
6	【文章反復】「私がこれから言うことを繰り返して言ってください」 「みんなで力を合わせて綱を引きます」		0 1	
7	【3段階命令】「私の言うとおりのことをしてください」(下記は一括教示) 「右手でこの紙を持ってください」 「それを両手で半分に折りたたんでください」 「その紙を机の上に置いてください」		0 1 0 1 0 1	
8	【読字】「ここに書いてある事をやってください」 『目を閉じてください』		0 1	
9	【遅延再生】「先ほど憶えてもらった言葉を思い出してください」	ひまわり(あさがお)	0 1	0 1 2
	(5分未満の場合は10の課題などを先に実施して時間を調整する。自発的な回答がなければ下記のヒントを与える)	きつね(ためき)	0 1	0 1 2
	①植物 ②動物 ③乗り物	自動車(じてんしゃ)	0 1	0 1 2
10	【物品呼称】「今からお見せする物の名前を教えてください」 (鉛筆と時計を提示する)	鉛筆 時計	0 1 2	
11	【書字】「何か文章を書いてください」※天気について書いてみてください (文法や句読点は不正確でも自発的の意味のあるものであれば正解)		0 1	
12	【図形模写】「この図形と同じものを書いてください」 (5角形が2つ、それぞれの角が1つ交差していれば正解)		0 1	
	得点合計		/30	/6

立方体	0 1
------------	-----



(二次調査用紙)

2次調査

WMS 実施時刻 _____

空欄は回答なし

では、最初に短い話を読みます。よく聞いて、できるだけ言葉通りに憶えるようにして下さい。私が読み終わりましたら、あなたに憶えて頂いた内容のすべてを私に話してもらいます。

会社の/	食堂で/	調理師として/	働いている/	点		
北/	九州の/	上田/	恵子さんは/	昨夜/	大通りで/	点
襲われ/	5万6千円を/	奪われたと/	駅前の/	交番に/	点	
届け出た./	彼女には4人の/	幼い子供がいて/		点		
家賃の支払いもあり/	2日間/	親子は何も食べていなかった./		点		
警官は/	この話に同情して/	彼女のために/	寄付金を集めた。	点		

どんな話でしたか。思い出せる部分で結構ですが、出来るだけ言葉通りに全て話してください。 計 点

判断力: (適切な返答がある場合:1点、不適切な返答の場合:0点)

- 1) 隣の家が火事になって火が燃え上がっていたらどうしますか? _____ 点
- 2) 宛名も書いていて切手も貼っている封筒を拾ったらどうしますか? _____ 点

見当識: (正解:1点、不正解:0点)

- 1) 時計を見ずに今の時間()を教えてください。(前後30分の誤差は正解とする) _____ 点

注意・集中: 「私がこれから言う数字を逆の順番から答えて下さい」(正解:1点、不正解:0点)

- 1) 2-8-6 _____ 点
- 2) 3-5-2-9 _____ 点

記憶・知識: 「私の質問に答えて下さい」(正解:1点、不正解:0点)

- 1) ○○さんの誕生日を教えてください。 _____ 点
- 2) 現在の総理大臣のお名前をお答え下さい。 _____ 点
- 3) 現在の消費税率は何%ですか? _____ 点

パレイドリアテスト: 正答 _____ /40枚 パレイドリア _____ /40枚 見落とし _____ /40枚

失語・言語の流暢性:

(10語以上:5点、9語:4点、8語、3点、6-7語:2点、3-5語:1点、2語以下:0点)

- 1) 知っている野菜の名前をできるだけ多く言って下さい。 _____ 点

--	--	--	--	--

- 2) 「かきくけこ」の「か」から始まる言葉をできるだけ挙げて下さい。人の名前や地名はいけません。 _____ 点

--	--	--	--	--

4) 倫理面への配慮

本調査は、2021年3月23日に文部科学省・厚生労働省・経済産業省より公表された「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、九州大学医学部倫理委員会および調査委託先の大学の倫理委員会の承認を得て実施される。また調査受診者より疫学調査のインフォームド・コンセントを同意文書にて新たに取得する。また、研究代表者および研究分担者は、対象者の個人情報漏洩を防ぐ上で細心の注意を払い、研究成果の公表は個人が特定されない形で行う予定である。

3. 調査結果

久山町では、65歳以上の住民を対象に、2022年5月から11月まで認知機能に関する会場調査を行い、その後未受診者を対象に訪問調査を実施した。島根県隠岐郡海士町では、2022年3月から、石川県七尾市中島町では、2022年5月から65歳以上の住民を対象に会場および訪問調査により認知機能調査を実施した。さらに、愛媛県伊予市中山町においては、11月～12月に対象者への健診の案内を郵送し、2023年1月より会場および訪問調査の実施を開始した。

2023年3月31日時点で、対象住民7,028名のうち、4676名（受診率67%）において認知症調査の一次調査および二次調査を完了した。

各地域の調査状況を下記に示す。

	福岡県 久山町	石川県 中島町	島根県 海士町	愛媛県 中山町	合計
調査対象者数	2,438	2,218	907	1,465	7,028
調査完了者	2,003	1,281	743	649	4,676
受診率	82	58	82	44	67

4. 今後の方針

今後も訪問調査を継続し、地域高齢住民の認知症およびMCIの有病率を明らかにし、調査成績を基に認知症およびMCIの年齢階級別有病率を算出し、わが国の人口分布を用いてわが国の認知症およびMCIの罹患者数を推計する予定である。